

地域緑化で連携 横浜ゴムと進和学園

平塚



西田所長(右端)から苗木を受け取る、鈴木さんら「どんぐりグループ」のメンバー
—横浜ゴム平塚製造所

平塚市追分の横浜ゴム平塚製造所(西田敏行所長)と同市万田の社会福祉法人「進和学園」(出縄雅之理事長)がこの夏、木の実から育てた苗木で地域緑化を進める「覚書」を結んだ。11日には平塚製造所で、製造所社員が育てたシラカシとアラカシの苗木約5300本を、進和学園側に提供する贈呈式が開かれた。

横浜ゴムは、2017年の創立100年に向け、国内外の生産拠点で計50万本を植樹する「YOKOHAMA千年の杜」プロジェクトを推進中。植樹のための苗木は、それぞれの生産拠点の社員が拾った木の実から育てることで自前調達している。

一方、知的障害者が利用する進和学園も、利用者の自立支援と賃金確保を目的に、利用者十数人がどんぐりから苗木を育てる「どんぐりグループ」をつくり、販売する取り組みを進めている。

この日の贈呈式では、西田所長から利用者代表の中居秀士さん(29)に目録、どんぐりグループの鈴木あけ

みさん(49)に苗木がそれぞれ手渡された。進和学園は、同市飯島に2棟の「どんぐりハウス」を構えており、中居さんらは「いただいた苗木を(ハウスで)大切に育てたい」と礼を述べた。

企業から社会福祉法人へ。苗木の「リレー」は、来年以降も毎年行われる予定。今回の取り組みは両者が連携したユニークな緑化活動として今後、注目されそうだ。

(宮本 敏也)



写真上:「苗木の提供に関する覚書」調印
(横浜ゴム/進和学園/研進)

写真下:苗木贈呈式(横浜ゴム平塚製造所)

「YOKOHAMA千年の杜」プロジェクト & 進和学園 「いのちの森づくり」